

2025 <構音>指導講座〔参加感想〕

今年もまた“熱い”と書きたくなるような日々が続いております。

皆さんの感想から、幾つか『ことば』をプロットさせて頂きました。そして、その『ことば』を紡いでみました。その結果、梅村の臨床姿勢を感じ取っていただいたと実感できる“文”になりました。どうでしょう。

- 『「子どもが“この人とやると楽しそうだな”と思える関係をつくれているか」という視点で』子
どもとの関係を見直し、『子どもと先生が同じ共通する活動を一緒に楽しむことが』できるようになると、その関係での活動は、『正確に「まねっこ」しようとすることにつながる』
- 『音が出せないのは、させ方に問題がある』と一見、自己否定的な発想のようにも見えますが、“世の中にはいろんな考え方や方法がある”とそこで納得してしまうのではなく、“どの考え方や方法が、直って良かったと感じる時に思わず生じる**相談者の笑顔に、より多く出会えるのかを基準**に、「考え方や方法」を選択する、つまり、『指導者が自分を変える柔軟性をもつこと』で、『自分のもとに通ってきてくれる子どもたちや保護者の方に、今回学んだことを還元していきたい』や『音を聞き取る力や音を聞いて今どのような構音運動をしているのかがわかるようにしていきたい』などと意欲的に自己変革に取り組めば、最終的に『親御さんが何とかやりくりして通級させてよかった!』となるのではないのでしょうか。

山形言語臨床教育研究会代表 梅村 正俊 2025.11.01

【 お断り 】

- ① 行替えは、本文と異なる場合があります
- ② 【●●】内の記述は、梅村の感想や意見です。個人の感想に対して、多少厳しいと感じられるコメントを述べさせていただいた箇所が数か所ありますが、決して、個人へ向けたコメントではありません。本講座に参加された**全ての先生方に考えていただきたい**内容と受け止めて下さい。尚、梅村からのコメントの記述は、全て明朝体で記載してあります。
- ③ **ご本人の記述（書体=HG丸ゴシック）の中で、赤文字にした部分も、全ての先生方にも考えて頂きたいと思える内容です。**
- ④ 構音記号は、旧記号です。ご了承ください。
- ⑤ 個人名は、所属を含めて全て記入しておりません。ですが、おおよその職種があったほうが良いと考え、以下の4種に分類し、番号の後に記しました。
A：通級指導教室（ことばの教室） B：病院・福祉関係の言語聴覚士
C：歯科クリニック関係 D：その他

8月16日（土） 2025 吃音指導講座〔日程〕 ※ 登場人物の名前は、全て仮名です

受付	9時30分～10時頃
<p>内容① 構音の誤り方の様相とその要因と疑われる発達上・認知上・医療上の問題</p> <p style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; text-align: center;">構音指導上の戒め：100回模倣させて、100回誤り音になったら、その誤り方を100回練習させたことになる</p> <p>内容② 機能的構音障害としての側音化構音に対する構音点指導の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学4年女児(まりさん)に対する【ʃi】[tʃi]の18分間の構音(点)指導の視聴と解説 <ul style="list-style-type: none"> ◀ 構音(点)指導開始後18分で【シ・チ】が、出る ▶ <li style="color: red;">この18分の中に、構音(点)指導の原則のほぼ全てが含まれています <p style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; text-align: center;">お断り：まりさんの指導は、前回は前回も視聴・解説しました。さらに視聴することで、『構音指導の流れの基本』をご確認下さい</p>	
昼食・休憩	12時～13時頃
<p>内容③ 年長男児たかし君への「か」の構音(点)指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 通室2回目【構音指導1回目=W画面】の指導の分析 <ul style="list-style-type: none"> [ka]の構音(点)指導◀音づくり▶から句での指導まで <li style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">150分をかけて、じっくり分析・検討を行います ◆ 通室3回目【構音指導2回目=S画面】の指導の分析 <ul style="list-style-type: none"> ◀ 会話への般化(早期終了)を意識した、句や文での練習 ▶ 	
夕食・休憩	17時30分頃～18時30分頃
<p>内容④ 側音化構音を含め複数の誤り方のある年少児ほのかさんへの構音(点)指導</p> <p style="color: blue;">【ち】の構音(点)指導◀音の出し方▶から◀句や文で言える▶の視聴と解説</p> <p>【ほのかさんの構音の誤り方のまとめ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 発達途上認められる構音の誤り ⇒ 『[k] ⇒ [t], [s] ⇒ [t] 他』 ② 側音化構音 ⇒ イ列構音障害・エ列構音障害 ③ 鼻咽腔構音? ⇒ オ列構音障害 ④ [h][ç][φ]の構音障害 ◀但、聴覚障害なし▶ 	
1日目終了	20時30分頃

8月17日（日）

開場	9時30分
<p>内容⑤ 側音化構音に対する「舌の体操や舌を平らにする指導」の必要のない構音(点)指導</p> <p style="color: blue;">年長児ひいさん(通室10回終了)の側音化構音「チ・シ」への構音指導から『/tʃ/の構音(点)指導』から『「ち」の句での指導』までの視聴と解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 通室1回目【構音指導1回目=W画面】の指導の分析 <ul style="list-style-type: none"> ● /i/の構音動態 ● 構音(点)指導の導入 配慮の仕方は？ ◆ 通室2回目 ◀構音指導2回目▶ <ul style="list-style-type: none"> ● 『/tʃ/ 構音(点)指導』から『単音節「ち」が言える』までの視聴と解説 	
昼食・休憩	12時頃～13時頃
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 通室3回目 ◀構音指導3回目▶ <ul style="list-style-type: none"> ● 『「ち」の句・文での指導』までの視聴と解説 <p>内容⑥ ◎ [キ・ケ]の構音(点)指導について、個に応じた幾つかの方法の紹介 他</p>	
終了	16時30分

O1A

一つ一つの音、そして一つ一つの行動に指導の意図があることが分かり、とても勉強になりました。それと同時にこれまでの自分の指導が恥ずかしく感じました。

1番衝撃的だったのは、“あえて歪む音に導く指導”でした。私はこれまで正音が出来上がると継続して言えるように意識が向いていたので、新しい視点でした。

また秋の吃音にも参加したいと思います。

【“あえて歪む音に導く指導”の言葉について、このままでは誤解されやすいので付け加えます。実際の経験がないと分かり難いこととは認識しつつ説明します。

“ ”の中の文を、より正確に表現すると、以下のようになります。“側音化構音が誘発される雰囲気や場面での指導”です。つまり、“構音運動を意識しないでも”正しい構音で発語しているかどうかを確認するための指導を行うわけです。例えば、「おいしいチーズケーキをちょっとだけ食べたっけー（山形弁）」の短文での指導では、この文を双六ゲームで5が出たときは、早口で3～5回続けて言わせませす。さらに、今のゲームの前に、数回ゲームを勝たせておいて、こう言うわけです。「まねっこ上手過ぎて、先生負けてばかりいるから、言っている途中くずぐって、下手にしてやるー！」と。実際にくすぐると「おいしいチー、やめろ！ズケーキをちょっと、やめろず！だけ食っ〔くすぐっている手を避けようと体を捻ったりしながら〕たっけー」等々、様々な方法で気を付けて構音することを邪魔し、“側音化構音”を誘発するのです。誘発してもなお“側音化”しない状態になって初めて、定着したと判断します。このような指導を、「音節で言える」から「単語で言える」「句や文で言える」などの各段階でも行います。

“構音を改善する”ということは、“構音を意識しないで言えるようにする”ということです。ですから、このように、常に“短期間での構音の改善＝通級の終了”を意識した指導を行う必要があるわけです。

“正しい構音を獲得する”そして“短期間で通級を終了する”、この2つの条件は、お子さんの健やかな成長を願う親や、場合によっては本人の切なる願いなのではないでしょうか。ですから、指導者側から言えば、この2つの条件は、指導目標の両輪と位置付けなければならないのです。

早期指導終了を目指す大切な指導ですので、次回の講座では、時間を割き、実際の指導を視聴してもらいながら解説します。

O2B

行木先生に臨床を学んだ事になっているのに、当時は何も考えずに楽しく子どもと遊んで、教材を作って終わってしまいました。本当に「子どもに向き合う」「子どもを理解する」と言う事に“気付いた”のは、中堅と呼ばれる年になってからでした。気付いてもすぐ出来る訳もなく、親切な先輩方のおかげで、いつまでも年下きどりのままでいられた恵まれた環境にいた事を改めて思い出しました。

何回も観て、解説を受けているはずなのに、今まで見過ごしていること（ほとんどの事です）に、自分で1つでも気付けた事が私にとっては大きな学びでしょうか。

問われて見えていない事を自覚する——うん毎回。解説されて、あれ？ こんな見方聞いた？ ——多分、私がキレイに忘れてる。解説されて、そうなんだ……。——きっとこれが本来の姿。解説されて、そうなんだ……。——きっと疑問も反感も共感も出来ない程私がキャパオーバー（きっと）。

ありがたいと言うか残念と言うか、梅村先生の指導のVTRに対し、もう学ぶことは学べた！ と言えない状態にあるという自覚があるので、きっと次回以降も都合をつけて来るのだろうなと思います。

模倣できる関係でなくても、これまで私の為に来てくれた子たちは“応じてくれる子”ばかり！！ だからこそ、私が「楽しいかも！」と思ったとたん、手の平返しに遭うのは子どもの方が無理して合わせてくれてた証拠。手の平返しにあわないと逆に本当？ 大丈夫？ と疑心暗鬼になって結局くずれたり……。

今年は構音の子をまだ持たせてもらえていないので、（**構音指導**で）悩む先生方を見てちょっぴりうらやましく思いました。

号泣の会に参加していたからと言って、正しい指摘ばかりではなく、たまにはごほうびが欲しいと思うのは職場で仕事以外で疲れる事が多いからかも。

【 **行木なめき先生は、梅村の臨床教育の基礎を叩き込んでくださった先生です。**

行木先生の指導力の一端を紹介させていただきます。

フルネームは、行木富子といいます。梅村が、1970年度に新採で赴任した千葉市立院内小学校言語治療教室〔当時の一般名〕の主任の先生です。

当時の院内小は、新しくできる言語治療教室を担当する先生方の実習機関としての役割も担い、千葉県内のみならず、全国から先生方を受け入れていました。因みに、元上越教育大学の湧井豊先生も1969年度に院内小で実習されています。

ある年の「全国言語障害児を持つ親の会（当時の名称）」の全国大会が、渋谷のNHKホール（当時のNHK紅白歌合戦会場）で開催されたとき、『ことばの指導』としての公開授業のコーナーがあり、そのコーナーの指導者が行木先生でした。千数百人の前での“授業”です。それに、NHKのことですから、事前練習があります。当然、本番でやろうとしていたゲームも練習させられたと笑っていました。そして本番、案の定、子どもから「先生、このゲームさっきやった」と言われたそうです。それでも楽しく指導を受けている子どもの姿が、NHK教育テレビの“ことばの治療教室”という番組で放映されました。行木先生の指導は、実に楽しいのです。指導を見せていただくたびに、行木先生と同じ年齢になった頃には、同じ年齢並みの指導ができる自分になっていなければならないという想いで歩んできました。が、「未だ、達せず」です。数年前永眠され、越すことのできない目標になりました。】

03A

指導の過程が分かるビデオを視聴させていただき、とても勉強になりました。

ビデオに先生の解説がついていたので、より理解することができました。

04

年少児ほのかさんへの構音指導、とても興味深かったです。音が出せないのは、させ方に問題がある。子どもが出せる刺激を大人が考える。発想力が大切と、うかがい、とても反省しました。

今、目の前にいる子どもたちは周囲からの指摘や聞き返しから、音を出すことに抵抗のある子どもたちも多いと感じます。

子どもたちが音を出すことを楽しめるように、模倣したくなるように、自分は何ができるのかを考えていきたいと思います。

【機能的構音障害としての側音化構音の場合、機能“的”との定義の上では、さしたる原因や要員や因子が特定できない、または、見当たらないことを意味します。ですから“側音化構音”自体に、その特性として『直り難さが』無いことを示しているといえるのです。つまり、『改善できる』のが普通といえるのです。従って、正しい構音に改善できないとすれば、それは、“指導者側の問題”ということになります。】

05A

今回、構音指導前後のVTRを対比させながら、そこに丁寧な梅村先生の解説が入り、その上で、再度VTRを何度も見せていただき、違いや意味を理解していく上で大変ありがたかったです。

お子さんが出した音は否定しないこと、般化に向けてその子が使う生活の言葉を選んで練習をしていくこと、「カ」が「タ」に誤る場合、あえて「カタナ」という単語を使って練習を、その子の「タ」を否定しないようにしていくことや他にも具体的なほめ方や声かけの仕方まで教えていただき、大変勉強になりました。

びいさんの「イヌ」の発音では、「イヌ」と聞こえましたが、この「イ」は正しい「イ」ではなかったこと、下あごの偏位を見抜くことができませんでした。1秒の「イ」を10秒にスロー再生した画像を見て初めて気がつきました。びいさんの「けちんぼ」の練習の際も「ke」が側音になっているとは説明があって知り、音の聞きとりの甘さを実感しました。

音を聞きとる力や、音を聞いて今どのような構音運動をしているのかが分かるようにしていきたいです。

06A

梅村先生のお話のしかたが、楽しくて分かりやすく、あっという間に時間が過ぎていきました。

今年初めてことばの教室の担当になり、先輩方からいろいろ教えていただいています。その中で、側音はなおすのが大変との話を聞いていたので、側音も少ない回数でなおるというお話は目からうろこでした。

意図があってまねっこをさせて、すぐ評価、次への手立てが大事であると分かりました。

本を読んでいるだけでは分からなかったことも、実際に動画を見たり、話を聞いたりすることで分かった時、とてもうれしかったです。

子どもとの関係づくり、子どもをよくみることを意識していきたいと思います。

07A

今回の講座で、構音点の指導をくわしく取り上げていただき、大変勉強になりました。小学4年女兒（まりさん）の指導は、以前も見せていただいたのですが、今回は先生の解説を聞いてくり返し視聴できたので、先生の指導の意図がよりわかりました。

一音ずつ全部評価する、評価しながら次にどう指導するのか、どう刺激を与えて音を変化させていくのかを考えての指導が大切だと思いました。

側音を誘発する、自己弁別する機会を作ってあげる、など先生の指導の奥深さも感じました。また、何をどう「まねっこ」するかも大切だけれど、**子どもと先生が同じ共通する活動と一緒に楽しむことが、正確に「まねっこ」しようとするにつな**がること、指導の土台にあるのは、子どもとの関係性の築き方であることを今回も学ばせていただきました。構音指導と子どもとの関係性はどちらも大切だと思うのですが、今回構音指導の方もくわしくご指導いただきありがたく思いました。私は3回目の参加ですが、毎回子どもたちの楽しそうな姿が心に残ります。子どもにとっては「遊び」でも構音指導は確実にできているというのは、指導者の力量あってのことと思います。自分の力量不足を痛感しますが、少しでもステップアップできるように努力していきたいと思います。【期待しています】

08A

まず、相談に至るまでの経過（さち子さん母やのぶくんのお母さんからのメッセージ）を読ませていただき、ことばの教室の役割、改めて考えさせられました。これから就学時検診→教育相談の流れの中で、子どもファーストで親御さんに選択していただけるよう、こちらが最大限努めていかなければと思いました。

そして、**親御さんが何とかやりくりして通級させてよかった！** となるように、私自身が子どもを見る目、感じる心をより高め、構音指導のレベルを上げ、早期改善させなければと改めて感じました。夏休み気分が一気に吹き飛ばすメッセージから、この研修がスタートしました。

実際のVTR視聴しながらの研修では、器質性の声門破裂音の子どもとそうではない子どもの構音検査が見られてありがたかったです。声門破裂音→口蓋裂や鼻咽腔閉鎖機能不全とっていたため、誤った評価をしてしまうところでした。また、今年度たまたま舌小帯が短く、ややハート型で、側音のお子さんが2名担当におり、舌小帯の硬直と側音に関係があるのか、また今のところ〔tʃi〕の指導において（不都合を感じず進んでいるが）問題がないのかと気にしていたところにも触れられており、大変ありがたかったです。

時折、発達の話や強化の学習理論の話が出てきて、今学ぶとおもしろそう、新たな発見、裏づけができそうと思えるのもこの講座ならではのありがたいことです。

ほのかさんの指導場面では、どこから指導するのかを問われ、答えられない自分がいました。その中で[才]から指導し、「お母さん」を早く言わせたい、**お母さん・お父さん喜ばせたい**というお話、なるほどと思いました。お母さんが喜び姿を見た子どもさんもうれしくなり、より意欲的になり自信をつけていくことが想像されます。舌を緊張させずに言える母音でもあり、才列をマスターすることでより意欲的に……と先のことも考えられました。

今日の研修では、ここで正音を出す！ と自分にスイッチを入れること、**指導者が自分を変える柔軟性をもつこと**、子どもの生活にあることばで指導すること、ゲップの例のように子どもが発信したもので指導に活かせるものは捨てること、安心させるかわりの中で自信が出てくる姿……たくさんのことを学ばせていただきました。

ことばの担当者も新しい方が増えてくる中、ことばの指導の楽しさと厳しさをVTRを通して伝えて行けるようになりたいと思います。

09B

暑い中、それにも勝る熱気のこもった講座に参加させていただきありがとうございました。

今回で（おそらく）3回目の参加ですが、今回改めて感じたことは「私は音段の臨床で子どもの反応を見落として、チグハグな返しをしていないだろうか」というものです。今回の先生のお話を通して「（お子さんとの）**関係の中で感じるものを大切に指導をすすめる**」ことが重要だと、身にしみてわかりました。まずは、自分の臨床場面をビデオ撮影して、その子の構音状態や気持ちの面の見落としがないか、振り返ってみようと思います（今まで、構音検査場面は録音やビデオ撮影していましたが、臨床場面は学生時代（言語聴覚士の養成校時代）の実習では毎回ビデオ撮影していたものの、最近は録音のみのことが多いのが正直なところでした）。「本人が自覚がなく訓練意欲がない」「正構音が会話に汎化しない」と言う前に、目の前の子と自分（臨床家）との関係、もっと言うと自分の臨床家としての姿勢を見直す必要があると感じました。「**子どもが『この人とやると楽しそうだな』と思える関係をつくれているか**」という視点でビデオを見直し、自分の臨床を修正していきたいと強く思いました（勿論、ビデオを撮らずとも、その場でこどもの反応を見落とさず返していけるようになるよう精進いたします）。

又、「台形的関係」「意のまま行い、則を越えず」「語用論的言語指導」等、初めて接する言葉・概念も多く、どれもが臨床と結びついていることを知り、大変勉強になりました。

10A

昨年度初めて通級指導教室（ことばの教室）の担当になり、今年2年目です。側音化構音の指導において、舌が平らであることや息が正中から出せることなどが大切だ

と先輩の先生方の話や書籍から知りました。舌の体操についても取り入れて指導されている方が多く、自分もやった方がよいのかと悩みながらやっていました。

今回梅村先生の指導の動画をもとにして、先生の子どもたちへの関わり方や言葉かけ、音の作り方の解説を聞くことができ、構音指導は模倣が最重要であることを学ぶことができました。自分の今までの指導を反省し、子どもたちが「楽しい」「もっとやりたい」と前のめりになるように、実践を重ね、1日も早い構音改善に励んでいきたいと思います。自分のもとに通ってきてくれる子どもたちや保護者の方に今回学んだことを還元していきます。

【2026 講座では、『まねすることが楽しい。まねをすることに自信がある。だから、もっとまねをしたい』の様子を沢山ご覧頂き、解説したいと考えています。

11A

今回はじめて梅村先生のお話を直接お聞きして、夏休み前までの自分の指導を受けてきた子どもたちとその保護者の方々に心から謝罪したいと感じました。通級ことばの教室に今年度4月からきましたが、初任者としての立場に甘えて子どもたち等の時間をうばっていたように思います。

梅村先生の指導場面を視聴する中で「子どもとの出会いからが指導」、一つ一つの指導者の行為に意図があるというのはこういうことなのかと実感いたしました（今までいかに自分がポケーっとながら子どもと接してきてしまったか……おはずかしいかぎりです）。子どもの舌の動き、表情、その一つ一つに意味があり、理由があるということ、瞬時に判断し、指導につなげられる梅村先生の行動一つ一つをみることがとても楽しかったです。

自分なりに今回の講座で見せていただいたものを真似して、2学期また1から一人一人の子どもと真剣に向き合っていきたいと思います。

12A

数年前、通級の先輩にオススメをされていたのですが、やっと今年参加することができました。ご自身のことを「おじいちゃん」とお子さんに紹介する梅村先生はとてもお元気で、後輩の私たちに指導の全てを授けて下さるご指導で感銘を受けました。

1日目の午前中、発達障害児についてお話をしてくださる場面がありました。梅村先生は本当にその子が障害であるといえるのかと疑問をもたれていました。梅村先生の計画的で瞬時に行われる子どもの観察、分析、それにもとづいた即時の指導、そして何よりその子のやる気や笑顔を引き出すことに最重点を置いている指導であることが、その子の特性を優に乗り越え、その子にとって楽しい時間になっているのだと、動画の視聴や梅村先生のお言葉から理解しました。常に観察し、先手、先手で子どもにかかわっていくからこそ、**子どもの不適応な行動を誘発させない**のですね。1人1人違う花丸ポーズ、先生とその子との楽しいつながり方を見つけ出すこと。その子の安心の環境を整えてあげること。えてして、指導者の私のやり方、やりやすいように

導いてしまうのが常だったので、目からウロコでした。一人一人との関係を大切にすることがわかりました。

構音の指導においても、その子の得意から音を導き出す技術から、その子自身が自分で弁別できるようになるまで、**いろんな引き出しを持てるように**精進していきたいです。今まで般化が難しいと感じていたのですが、生活言葉で練習すればよいこと教えていただきました。今回の研修で新しい発見が多く、たくさん学ばせていただきました。

2日目は、口のまねっこの根本のところを直接教えていただきました。はっきりした発音をするためには、口を大きく動かす方が良く**勝手に思い込んで**いて、日常に使える発音とかけ離れたことになっていたとやっと気がつきました。今まで、1年の教科書のあいうえおの口形によく戻って指導していました。**【ことばの教室での指導は、国語ではありません。国語のように扱うと構音指導では誤り音を誘発します】**自分だけでは、自分の口がどうなっているかも分からなくなってしまい、他の先生の口形を見て、やっと理解できました、恥ずかしい限りです。

これから二学期、自分の目と耳をきたえながら、ニコニコ授業を目指していきたいと思います。

13A

繰り返し教えていただいても忘れてしまうことが多く、毎回改めて再確認させていただくことばかりです。日頃やっていることをいかに説明できないか、言語化できないか、自分の課題に気づかされました。

1日目のまりさん〔tʃi〕の指導場面は、前回も見せていただき解説していただき、指導のイメージがとてもわかりやすかったです。子どもの頭の中のイメージを考えながら指導していくことはわかりました。今回は最初、詳しい解説とその後、もう1回流して見せていただいたことで、指導の対応と子どもの変化がよくわかりました。自分のしていることを説明（言語化）できるように日々頑張ろうと思いました。大きな流れ（終了）の中で詳しく見られるようになりたいです。

子どもは、初回あるいは1回目で「まねしてね」と言ったくらいで、フワッと正しい構音を出してくれることがありますが、その後再び続けて出せなくなる場合があります。子どもの気持ちがまっすぐ向いて模倣の条件が整っていればできるんですね。この子とどうしたら模倣できる条件が整うかももう1度考えてみます。

すぐろくでのサイコロの使い方。2回3回と連続にすることで語頭だけでなく語中の練習ができることと、指さしのテンポを早くすることでスピードをコントロールできること。

2回と同じ模倣をさせない工夫など。毎回思うのですが、また再びリズム、スピード、語尾につけることは、感情表現など工夫することはたくさんあり、バリエーションを豊かにしていきたいものです。

[ke] [ka] の構音の出し方も参考になりました。